

## 2018年台北国際自転車展報告

(一財)自転車産業振興協会(JBPI)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っている。2018年10月31日から11月3日にかけて台湾にて開催された台北国際自転車展に、自振協による共同出展ブースを設け日本企業15社の出展を支援した。同展の概要を報告する。

### 1. 展示会概要

本年度で第31回目となる2018年台北国際自転車展(Taipei Cycle2018)は、台湾・台北市にて、2018年10月31日(水)～11月3日(土)の4日間開催された。本年は会期を例年の3月末から10月末に移しての開催となった。会場は前回同様、台北世界貿易中心南港展覽館と台北世界貿易センターの2か所であった。メインの会場となった南港展覽館1号館は、1階に地元台湾企業の部品・付属品の出展者が集まり、同館4階にはジャイアント、メリダの台湾2大ブランドを筆頭に完成車メーカー及び海外からの出展者が集結しており、当協会ブースである日本パビリオンやCONEBIの欧州パビリオン、イタリア、韓国の各国パビリオンも4階に位置していた。



南港展覽館1号館1階の様子

主催： 中華民国對外貿易發展協會 (TAITRA)

開催地： 台湾・台北市、台北世界貿易中心南港展覽館1号館 (Hall.1)  
台北世界貿易センター (TWCT) Hall.3

会期： 2018年10月31日(水)～11月3日(土)

入場者数： 33,885名、うち海外4,932名、国内28,953名

(前年97カ国41,892名、うち海外8,672名、国内33,220名)

出展社数： 1,150社 (前年1,170社)



南港展覽館 1 号館 4 階の様子

来場者数は前年比 19.1%減の 33,885 名と前年より 2 割近く減少した。国内からの来場者は前年比 12.8%減の 28,953 名であったが、海外からの来場者は前年比 43.1%減の 4,932 名となり半減近くも落ち込んだ。今年は 7 月にドイツでユーロバイク展、9 月に米国でインターバイク展、更に 10 月中旬には OEM 向け商談会の台中バイクウィーク (BW) が開催され、世界的な自転車催事が続いた後であったことも、台北展の海外来場者数の大幅減に影響したと考えられる。

順位	国・地域名	出展者数 (社)
1	台湾	813
2	中国	66
3	日本	33
4	米国	25
5	香港	21
6	ドイツ	19
6	イタリア	19
8	オランダ	10
9	パキスタン	9
10	フランス	7

出所：出展者リストより集計

出展社数については、前年とほぼ横ばいの 1,150 社であり、各社合計で 3,250 小間の出展を数えた。地域別出展者でみると、台湾を含むアジア地域からの出展者が全体の 9 割に達し、欧州地域からは計 87 社で全体の 8%、北中米地域は 28 社で同 3% となっている。出展者上位 10 カ国・地域は表 1 のとおりであるが、台湾一カ国だけで出展者全体の 7 割超を占めている。日本からの出展者は当協会ブースの共同出展者 15 社を含め計 33 社となり、台湾、中国に次いで 3 番目の出展者数であり、日本企業がいかに台北展を重要視しているかが伺える。

## 2. 電動自転車 (E-BIKE)

展示会場内では欧州市場で人気の高まる電動マウンテンバイク (E-MTB) を中心に多くの電動自転車 (E-BIKE) が各所で展示されていた。欧州で主流のフレーム中央部にドライブユニットを配置し、下パイプ内にバッテリーを内蔵したすっきりとしたデザインの E-MTB が多く見られた。また、E-BIKE ブームに沸く欧州にて E-MTB に次ぐ車種としてその可能性が模索されている電動ロードバイクについても、いくつかのブースで散見された。更には E-BIKE の完成車のみならず、電動ドライブユニットや E-BIKE 用フレーム等の関連部品類も数多く出展されており、E-BIKE にかける意気込みが会場からも感じられた。





E-MTB



電動ロードバイク

現在、欧州委員会(EU)は中国製電動自転車に暫定アンチダンピング(AD)税を課している。欧州輸入業者団体等からの反対意見はあるものの、まもなく確定 AD 措置が公になる予定である。また、最近、米国が中国から輸入される自転車及び自転車部品類に追加関税を賦課したところであり、欧米当局の中国自転車産業への対応は、中国のみならず台湾を含む世界各国の自転車産業界にも影響を及ぼす可能性があり、それらの動向には今後も注視したい。

その間隙を縫うように最近では台湾から欧州向けの電動自転車の輸出が増加傾向にあり、2018年1～9月の台湾からのE-BIKE輸出は台数・金額共に前年より5割近く増加している。一方で同期の一般自転車の輸出台数は前年より僅かだが減少している。特に欧州向け輸出は近年カンボジアの台頭が目立ち、台湾からの輸出は停滞気味である。

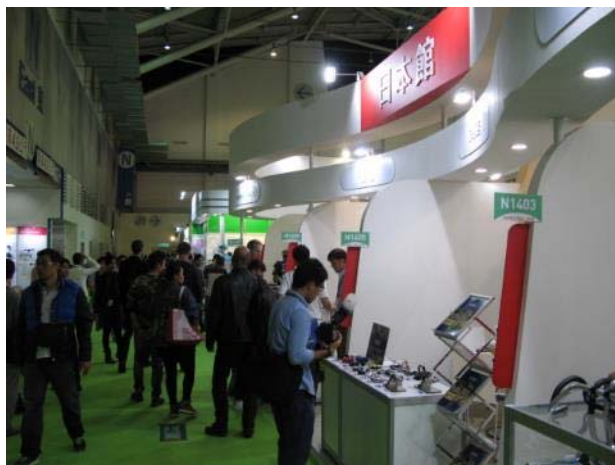
	2017年1～9月	2018年1～9月	前年比(%)
一般自転車(万台)	177.9	165.6	-7.0
電動自転車(万台)	13.2	19.5	+47.9
一般自転車(百万US\$)	955	1,091	+14.2
電動自転車(百万US\$)	177	269	+51.84

出所：台湾財政部関税署、TBA

### 3. JBPI 共同出展ブース

本年は 20 小間を確保し、下記図表のとおりアウタートップ(株)、(株)ASK TRADING、(株)日東、(有)SAKOH、(株)ウェイブワン、(株)扇工業、合同会社 5LINKS、(株)テック・ワン、絹自転車製作所、(株)三ヶ島製作所、(株)ハチスカ、合同会社ライフサイズモビリティ、Gerworks、(株)トップ及び(株)KLC PRODUCTS の合計 15 社の日本企業が共同出展した。

JBPI 共同出展ブースでは、折りたたみ車、E-MTB、ロードバイク等の様々な完成車のほか、ペダル、ハンドルバー、ステム、ベル及びライト等の部品・付属品が展示され、当ブースは日本の高品質な自転車部品・付属品等が集まる「JAPAN パビリオン」として、当ブース周辺には来場者の往来が絶えることなく、各共同出展者小間では活発な商談等も行われた。今回は特に Gerworks が出展した竹製フレームが多くの来場者から注目を集め話題となった。



JBPI 共同出展ブースの様子

表 3：2018 年台北国際自転車展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 U R L	電話	主な出品物
アウタートップ(株) SHAKES	〒106-0031 東京都港区西麻布 3-3-3 第 6 谷澤ビル 2A <a href="http://www.shakes.tokyo">http://www.shakes.tokyo</a>	03-6459-2828	グリップ

(株)ASK TRADING BOMA	〒341-0018 三郷市早稲田 4-10-2 <a href="http://www.boma.jp">http://www.boma.jp</a>	048-951-5820	カーボン製自転車、 カーボン製フレーム
(株)日東 NITTO	〒334-0013 川口市南鳩ヶ谷 3-23-7 <a href="http://nitto-tokyo.sakura.ne.jp/index-E.html">http://nitto-tokyo.sakura.ne.jp/index-E.html</a>	048-286-7771	ハンドルバー、キャ リア、シートピラー
(有)SAKOH RINDOW	〒770-0866 徳島市末広町 2-1-84 <a href="http://rindowbikes.jp/">http://rindowbikes.jp/</a>	088-678-6781	自転車用ライト 小径車
(株)ウェイブワン Kapelmuur	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-23-17 ロフト原宿 4F <a href="http://www.kapelmuur.jp/">http://www.kapelmuur.jp/</a>	03-6418-9228	サイクリング用衣料
(株)扇工業 SOUND RUNNER	〒123-0861 東京都足立区加賀 2-12-9 <a href="http://www.ohgibell.com/">http://www.ohgibell.com/</a>	03-3898-1083	ベル
合同会社 5LINKS 5LINKS	〒168-0081 東京都杉並区宮前 3-15-24-213 <a href="http://5links.jp/">http://5links.jp/</a>	03-3562-6811	折りたたみ自転車 ロードバイク
(株)テック・ワン CARACLE	〒580-0006 松原市大堀 1-1-12 <a href="http://www.caracle.co.jp/">http://www.caracle.co.jp/</a>	072-334-8739	折りたたみ自転車
絹自転車製作所 SILK CYCLES	〒350-0311 埼玉県比企郡鳩山町石坂 1414 <a href="http://www.silkcycle.com">http://www.silkcycle.com</a>	0429-96-1211	ツーリング自転車
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市糞谷 1738 <a href="http://www.mkspedal.com">http://www.mkspedal.com</a>	04-2948-1261	ペダル
(株)ハチスカ ZERO-PUNC	〒444-2111 岡崎市西阿知和町御用田 1-1 <a href="http://www.hachisuka.co.jp/zeropunk.html">http://www.hachisuka.co.jp/zeropunk.html</a>	0564-45-7171	対パンクチューブ
合同会社ライフサイ ズモビリティ XROSS	〒321-3226 宇都宮市ゆいの杜 1-5-40 とちぎ産業交流センタービル <a href="http://www.xrossworld.com">http://www.xrossworld.com</a>	028-306-0443	電動MTB
Gerworks	〒558-0011 大阪市住吉区苅田 3-14-19 <a href="http://gerworks.com">http://gerworks.com</a>	06-7503-5057	竹製自転車 竹製フレーム
(株)トップ lovell	〒213-0027 川崎市高津区野川 3914 <a href="https://www.lovell.jp/">https://www.lovell.jp/</a>	044-777-4674	自転車用付属品類 サイクリング用衣料
(株)KLC PRODUCTS maware	〒231-0861 横浜市中区元町 2-80 <a href="http://www.maware.net/">http://www.maware.net/</a>	045-246-4337	グリップ、バッグ サイクリング用衣料

#### 4. 5か月後に迫る次回開催

台北展は長らく毎年3月に開催されてきたが、本年は10月末～11月初旬に開期をずらした。本年は台中BWと台北展の会期は接近し、結果、台北展の来場者は前年より減少し、特に海外の来場者は半数近く落ち込んだ。主催者は早くも本年7月の段階で台北展の会期を従来の3月に戻す決定をした。この判断は多くの関係者から歓迎されたと思われるが、本年開催後わずか5か月後の2019年3月に会期が設定されたため、その期間の短さに多くの出展者が困惑したに違いない。今年ドイツのユーロバイク展も7月開催に変更したものの、結局、来年は従来の9月上旬の開催に戻した。また、米国のインターバイク展は会場をリノに移転したが、規模的には縮小傾向にある。今年世界の主要自転車展が大きく変動し出展者や来



場者に大きな影響を及ぼしたが、今後は参加者のことを十分考慮した上での展示会開催が望まれる。

台北展の来年 3 月開催時には、南港展覽館 2 号館 (Hall. 2) が完成し、次回からは同館 Hall. 1 (4 階部分のみ) と Hall. 2 が展示会場となる。今回は主に新規参加企業を中心に出展者が集った台北世界貿易センター (TWCT) の会場は使用されない。TWCT へは無料のシャトルバスが運行されていたが、本会場の南港展覽館からはやや離れた場所にあり、残念ながら両会場の来場者の数には大きな差が見られた。来年からは参加者の移動の手間が無くなり、利便性が更に高まることが期待される。日本の自転車産業と台湾自転車産業は密接なつながりがあり、多くの日本の自転車関連企業にとって台北国際自転車展は出展者・来場者のいずれの立場であっても、大変重要な自転車展であることに変わりはない。次回の Taipei Cycle2019 は、2019 年 3 月 27 日 (水) ~ 30 日 (土) の 4 日間、開催予定である。



建設中の 2 号館



TWCT の様子

以 上

※写真はすべて筆者撮影（同展メディア登録済）